



小林 眞 まこと

私のこと



私は、白銀のハマで生まれました。「ハマのなげわらし」です。実際に耳で聴く感じでは「なげわらす」と表記した方がいいかも知れません。八戸の方言で「なげる」は「すてる」の意味があります。あっ、「わらし」は「こども」です。

そのこども時代に、チリ地震津波や白銀大火を経験しました。船が流されても、家が焼かれても、落ち込んでいるのは数日で、大人たちが冗談を言いあいながら、焼け跡の後片付けをしていたのを覚えています。八戸の人は強い。

楽しい思い出はたくさんありますが、何といっ

ても金吹沢での花見です。親戚一族が小型トラックの荷台にすし詰めになって繰り出し、大人たちは桜の木の下で車座になって大酒を喰らい、子供たちは池のオタマジャクシ獲りに夢中です。

小学時代は野球少年で、各学年1クラスの小さい学校でしたが、ピッチャーで4番、背番号は3でした。少年雑誌の特集でナックルを覚え、三振の山を築きました。

しかし、これがもとで肩を壊し、甲子園...プロ野球...の夢は途絶えました(なんて)。



中学時代は、大火で焼け出されたので小中野の北横町に移り住みました。

父が水産関係(魚をあつかう)の仕事をしていたので、できたばかりの第二魚市場辺りを、犬を連れて散歩するのが日課でした。親にせがんで関野のカメラ屋でオリンパスペンEを買ってもらいました。ハーフサイズカメラなので36枚撮フィルムで72枚撮れましたが、一枚一枚、大事に大事に撮影していました。私のカメラ人生のスタートです。

高校時代は白銀に戻っていましたが、学校までの6kmほどは、雨の日も雪の日も自転車通いでした。学校帰りには、必ず二軒の本屋をはしごしました。一軒目は三日町の伊吉書店。2階の難しい本が並んでいる書棚でひたすら立ち読みです。行くとたびに世界が広がった気

になっていました。二軒目は小中野の木村書店。店員さんに「ルノワールのイレーヌ嬢」がいて、この方を毎日目にするのが楽しみでした。今は、どうしておられるのでしょうか。本物には2018年の春に国立新美術館でお目にかかることができました。



大学時代、学部は法学部でしたが、1・2年生の教養部時代が楽しかった。好きな先生はダントツ、タカトミでした。日本史のタカトミこと高橋富雄先生は、日本列島の古代において東北地方は超先進地域であったことを、自分の研究をもとにその証拠となる数々の事例を授業で披露するのが常でした。東北人として少し胸を張る気持ちになりました。また、その時々^{トキトキ}の支配者というのは過去の歴史を自らに都合よくいくらでも書き換えるのだということも学びました。

課外活動では市民劇団に参加しました。妻とはこの演劇活動の中で出会いました。妻は演出、私は役者はやらせてもらえず、裏方、というか使い走り。この構図、関係性は今に至るまで堅固に維持されています。

いろんな劇団の公演も観ましたが、何といっても紅テント。最前列に陣取り、李麗仙のつばきを思いっきり浴びました。当時アングラのスターであり、後にはテレビドラマや映画にも多く出演した李麗仙さんは、八戸出身の画家久保田政子さんの20年来のお友達ということもあり、2009年5月に燕嶋神社で一人芝居「桜川」を上演していただきました。バンドまがいの結成しました。担当はエレキベース。バンドの名前は「前途多難」。この頃、既に今を見通していたとは!

最初の就職は県庁で、青森県税事務所が職業生活のスタート。法人関係税を担当しましたが、税の世界から見える社会がとても新鮮でした。仕事も楽しく、色々アイデアを出しては先輩と議論、そして夕方になると...「いぐぞ」の一声。先輩には職場で指導にあずかり、夜は赤ちょうちんの下でのご指導(お叱り?)でした。今の若い人には想像できない世界だと思いますが。

自治省(現総務省)に移ってからは、もっぱら地方財政畑を歩きました。日本の地方財政制度は世界に冠たるものだと思います。日本国中どこに住んでも一定の標準的な行政サービスが受けられるのです。(自治体がそれに甘んじてはいけません)



1991年10月から5年半、埼玉県旧浦和市の企画部長を務めました。楽しいことばかりでしたが、その中から2つほど。

一番の大仕事は浦和、大宮、与野3市の合併でした。何事も東京の方を向きがちで依存する形になってしまう埼玉県に政令指定都市を誕生させ、関東にもうひとつの臍をつくらうという試みです。しかしながら、それぞれに思惑があり、周りからそして何よりも合併に係わる当事者からも無理筋と思われていました。世界的に見ても人口40万人以上の都市が合併した例はありません。特に隣り合う大きな都市は協力より常に競争という関係にあるからです。このときに心掛けたのは、3市の企画担当部局の、まさに事務レベルでの情報共有でした。頻りに連絡しつつ方向性を話し合うことで(夜の会合も)、3市の議会で私が起草した同文の合併促進決議を同じ日に可決することができました。

ふたつめは、何ととっても“浦和レッドダイヤモンズ”です。この頃はまだJリーグ、というかサッカーがあまり人気スポーツではなく、市の競技場の改修や市民公園の事実上のレッズ練習場化に反対の声も多く、議会で激しい議論がなされました。それが、皆様ご存じの通り、その後の市民の熱狂ぶりは大変なものです。リオ五輪のときに、サッカー観戦をしていた日本人サポーターが試合終了後スタジアムの座席周りをきれいにして帰ったと世界から称賛されたことがありました。あれは、レッズのサポーターが始めたことです。“フーリガン”の皆さんが変身を遂げて...という感じでしょうか。



市長就任後は皆様ご案内の通りですが、特に印象的なことをみつつほど。ひとつめは“ドクターヘリ”です。市長就任後間もないころのある会議後の交流会で、市民病院のK先生がそっとそばに寄ってきて「これからはドクターヘリです」とささやかれました。病院とヘリコプターとの結び

つきはすぐにはピンときませんでしたが、会うたびに説明を受け(説得され続け)、そのすばらしさに目を開かさせてもらいました。当初、県が消極的でしたので、他県からドクターヘリを借りてデモンストレーションをしたり、ドクターヘリ推進のNPOへムネットの國松孝次理事長(警察庁長官狙撃事件で重傷を負うも救急治療により一命を取りとめる)に講演をお願いしたりと様々な活動を展開。その甲斐あって、平成21年に市立市民病院に東北で2番目となるドクターヘリの配備が実現できました。うちのお父さんを運んでもらいましたとか、私運ばれましたなどという話が聞かれるようになり、政治家冥利、市長冥利につきます。

ふたつめは“はっち”です。建物をご覧いただければお分かりのように、はっちは様々な「場」としていかようにも利用可能な構造になっています。スタート前から活発に動いた初代館長やスタッフ、コーディネーターの皆さんの類い稀な発想力や幅広い人的ネットワークが活かされ、はっちに命が吹き込まれました。いまやまちづくりの元気の源です。全国的にも評価され2015年には、文化庁長官表彰もいただきました。



みつつめは3.11当時のことです。東日本大震災から今年でちょうど10年目の節目となりましたが、国県をはじめ皆様のご支援により概ね復興計画通りに事業を進めることができました。発災直後のことです。海上自衛隊八戸航空基地の当時の群司令が咄嗟の判断で、避難する車両や人々を基地内に引き入れてくれました。そして、その後1000人を超える避難者のために基地内の施設を避難所として利用させてくださいました。八戸航空基地は臨海部の工場地帯に隣接する高台にあり、そこで働いていた皆さんにとって通常は厳しいガードがなされている基地に避難することができたのは本当にありがたいことだったと思います。

さて、最後に好きなことなども少し。
まず、成長に応じて出会った文学作品について。



小学校時代は“宮沢賢治”の「雨ニモマケズ」を繰り返し暗唱していました。

『雨ニモマケズ 風ニモマケズ 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
丈夫ナカラダヲモチ 慾ハナク 決シテ瞑ラズ イツモシヅカニワラッテ
キル...ヒドリノトキハナミダヲナガシ サムサノ』

中学時代は“石川啄木”。『不來方のお城の草に寝転びて空に吸はれし十五の心』

のちに“尾崎豊”の「十五の夜」に出会ったとき、真っ先にこの歌を思い出しました。十五の心も時代によってここまで変化するのか！

高校時代は...『志乃をつれて深川へいった。識りあって、まだまもないころのことである。』

そう、“三浦哲郎”の「忍ぶ川」。不覚にも、それまで郷土にこのような素晴らしい先輩がいたことを知らずにいました。ちょっと、小説家を目指そうかなと思ったりもしました。

大学時代は本を読み漁りましたが、当時のやや暗い世相や、演劇関係ということで、この人“寺山修司”『マッチ擦るつかのま海に霧深し身捨つるほどの祖国はありや』

天国のタカトミ先生に、現代においても東北は少なくとも文化的には前衛的超先進的だとお伝えします。

そして、最近読んだ本で驚いたことは、実は「時間」というものは無い、存在しないということとか、タコは人間と同じ心を持っているとか、社会現象の因果関係(あのことがあった結果このことがあったなど)は、厳密に確定させるのは困難だということなどです。



ウニ獲る人々

なかなかカメラを持ち出せないでいましたが、先日お声がけをいただき、洋野町^{しやくのへ}宿戸で行われた北限の海女撮影会に参加させていただくことができました。その際の2枚。(とても「作品」とは呼べませんが)

わたしも海女!

プライベートな時間は、ながら音楽で生活しています。最近、“あいみょん”を聴かない日はありません。特段運動はしていませんが、“リングフィット アドベンチャー”にはまっています。いつも玉の汗で、かなり効果があります。

以上、少々かっこつけながらの「私のこと」でした。

